

# 緑地共生体

— 漁港の復興から始まる、共に生きる暮らしの再生 —



日本建築学会 まちづくり展

学生シャレートワークショップ成果発表 2011年4月21日(木)

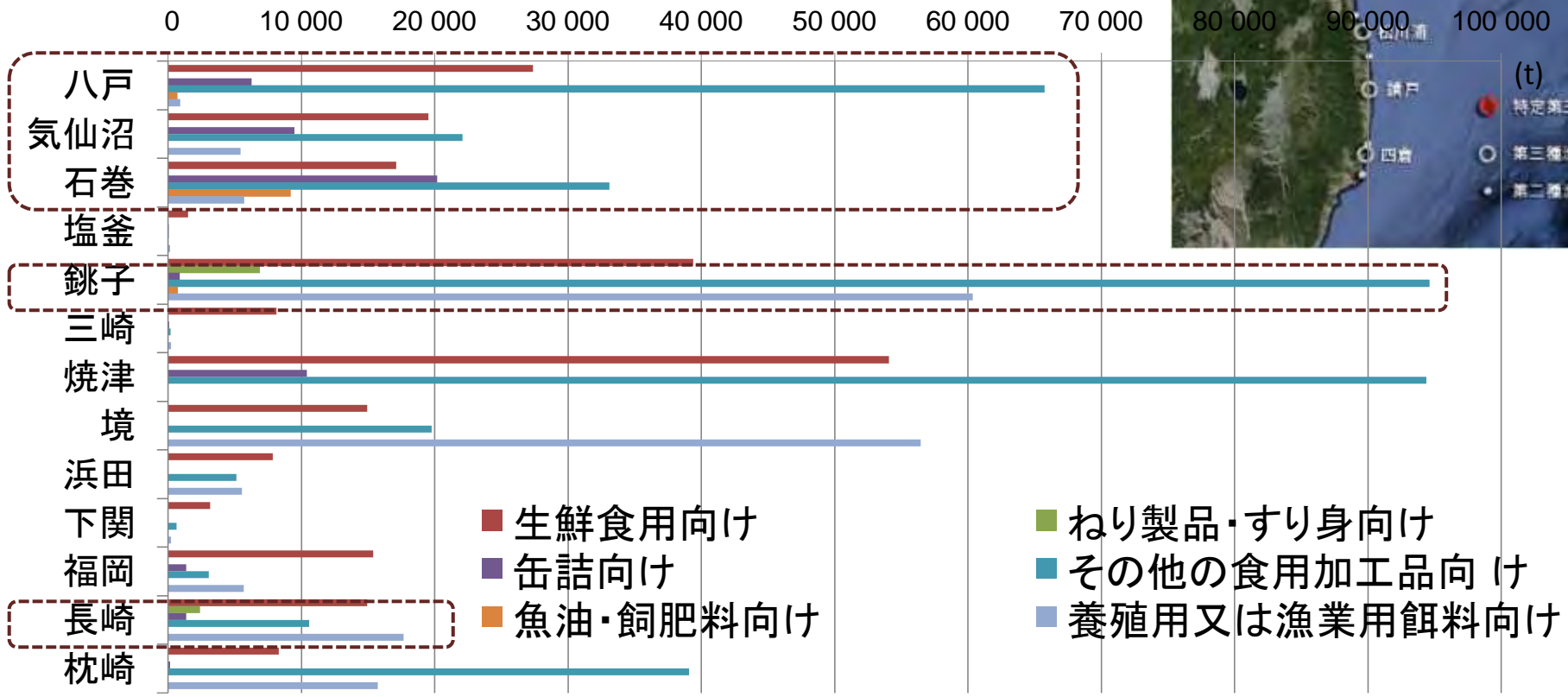
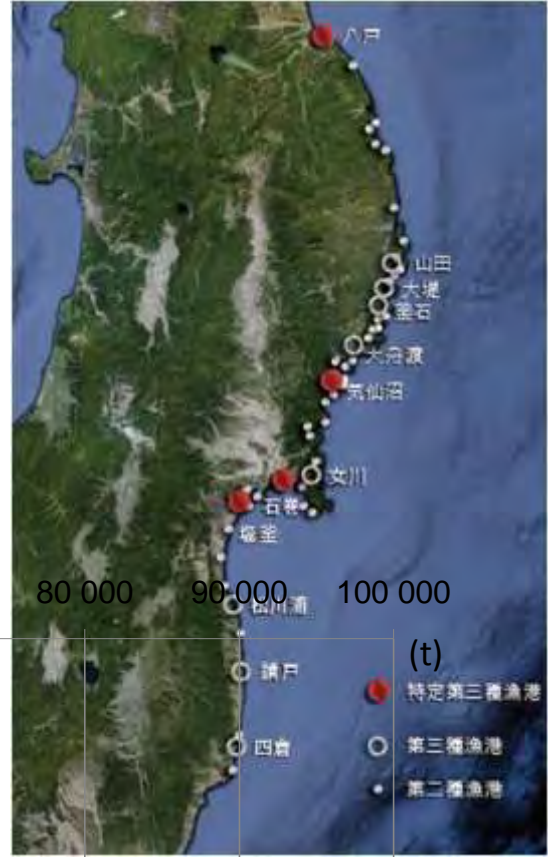
D班メンバー: 岩城和昭、小原えり、加賀敏征、佐藤岳志、竹内彩乃、中川沙織  
飯田諒、工藤茂樹、関谷進吾、武田健太郎



- 従来はコンクリート防波堤→効果△景観×
  - 今回の提案＝緑地共生体
    - 普段は、漁師、関連事業者、住民、生態系など緑地体とともに暮らしを再生する
    - 災害時には、緑地体が防波堤の役割を果たし、生活者を守る
- 共生の関係

# 東北3県における漁港の役割

- 特定第三種漁港の数が全国の**約3割**を占めている。  
→全国的シェアを占める漁港が集中
- 八戸、気仙沼、石巻、銚子、長崎に関しては、水産加工業が盛んに行われている  
→**水産加工品**が特産物となっている



特定第3種漁港の主要品目別出荷量

# 石巻漁港の特徴と被害状況

4市における家屋倒壊数と倒壊率

	世帯数	倒壊数	倒壊率
八戸市	102,142	675	0,7%
気仙沼市	26,622	5,782	21,7%
石巻市	60,890	11,815	19,4%
塩釜市	22,179	1,263	5,7%

長く直線的な岸壁が影響

石巻市における水産業関連の施設数

魚市場	3	市場
冷凍・冷蔵工場数	97	工場
営んだ水産加工場数	151	工場
塩蔵・乾製品	93	工場
ねり製品	26	工場
冷凍食品	31	工場
その他	198	工場



[震災前]

[震災後]

漁業を中心とした水産加工業が盛んに行われていた。

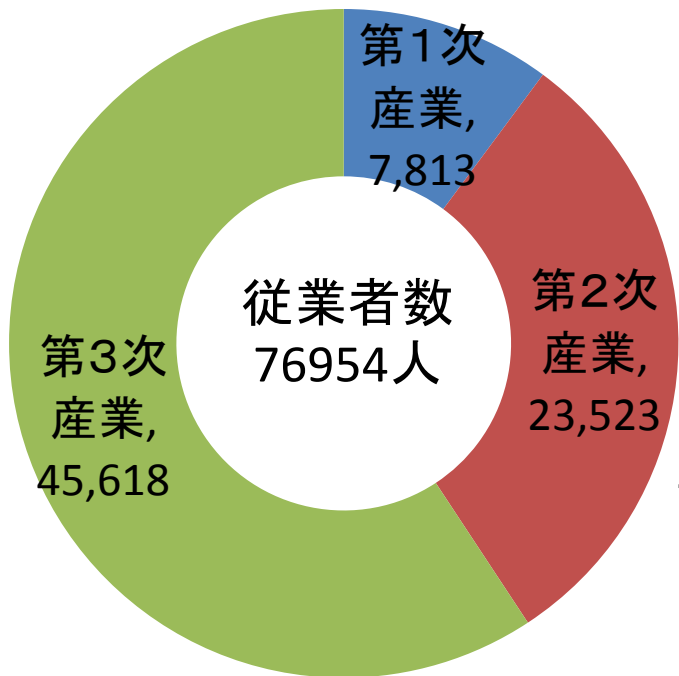
漁業、水産加工業が壊滅的な被害にあった。

# 復興への課題

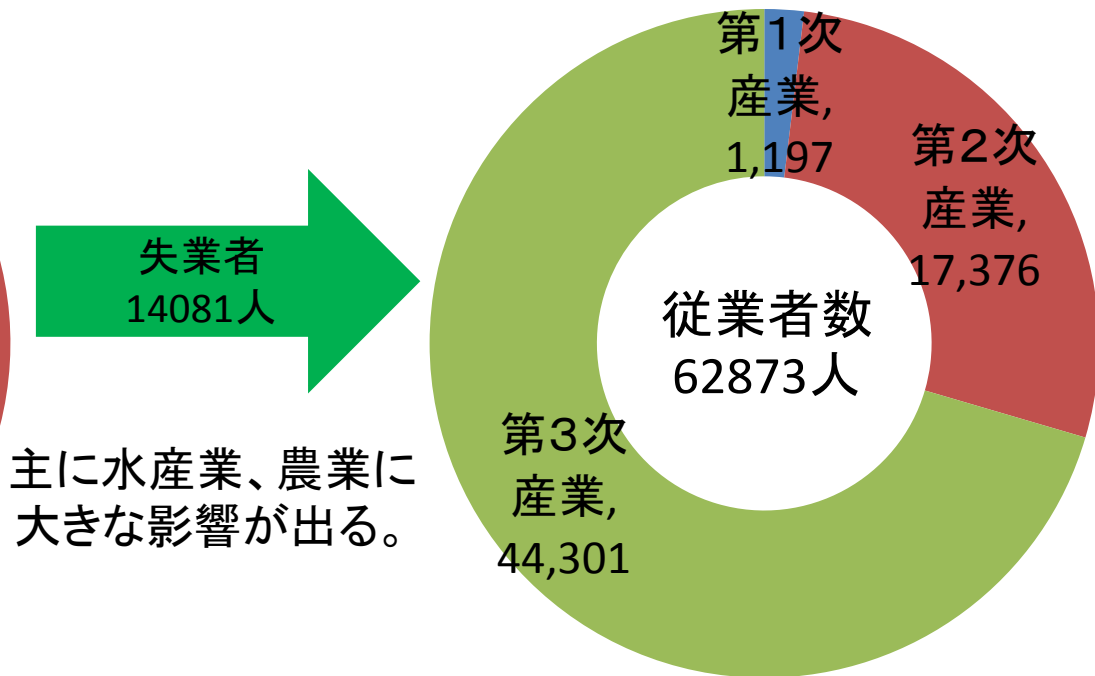
※農業→浸水データから概算(102km<sup>2</sup>中73km<sup>2</sup>)  
水産業→一時的にすべて失業すると仮定  
その他→阪神淡路大震災を元に概算

## 1. 震災により失業率が増加

[震災前の従業者数]



[震災後の従業者数]



## 2. 防災機能が弱い

# 具体的な復興プラン

### ① 生業の復興

漁港からの復興: 時間の流れに沿って4つのフェーズでプラン化

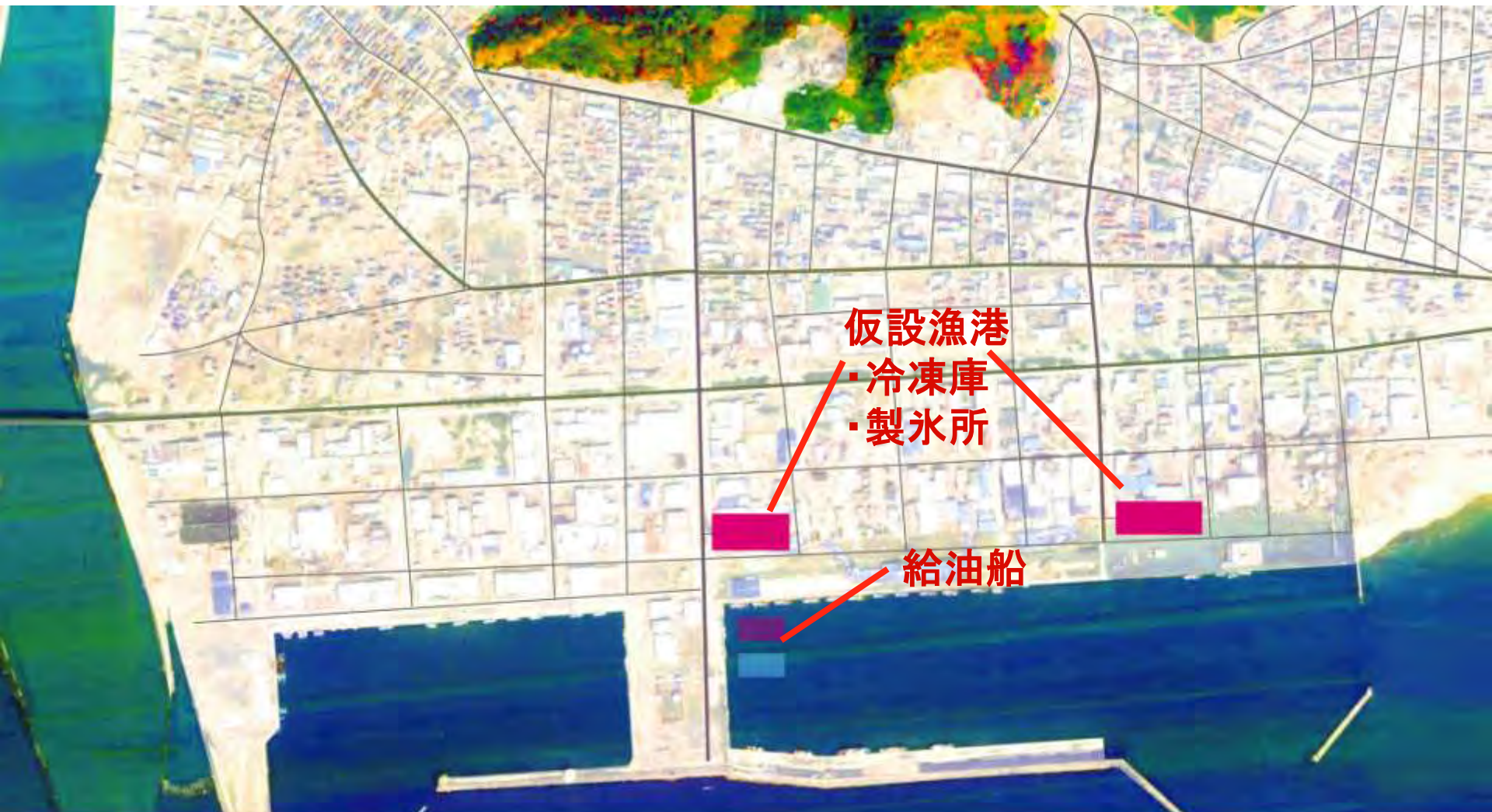
### ② 防災機能向上

緑地からの復興: 「漁港からの復興」に沿うかたちでデザイン

# Phase1（現在～2ヶ月）

## 主要漁業の仮復興

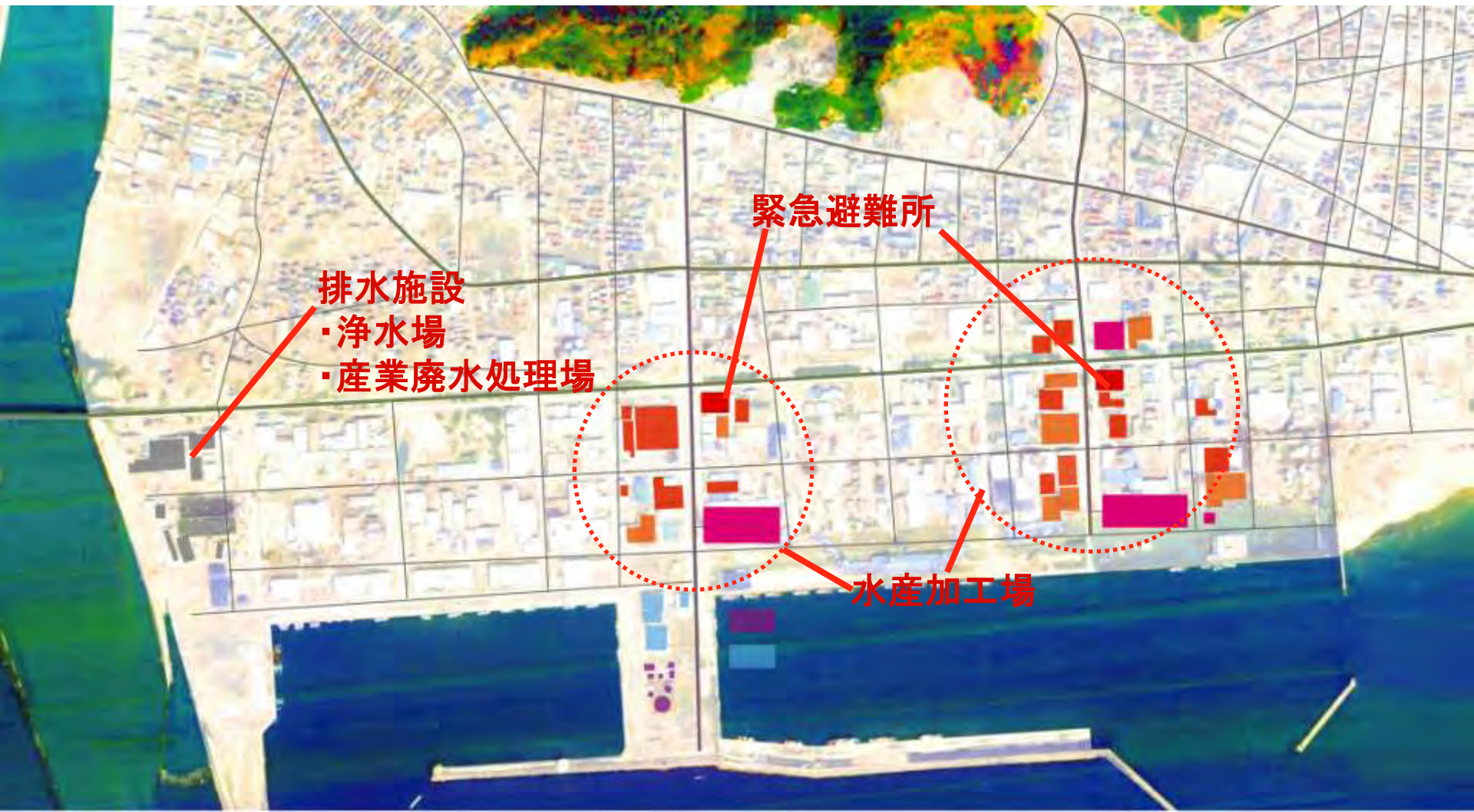
- ・6月のカツオ漁に間に合わせるために、早急に**仮設漁港**を設置
- ・冷凍船や給油船の利用
- ・他漁港との連携



# Phase2 (1~2年)

## 水産加工業の復旧

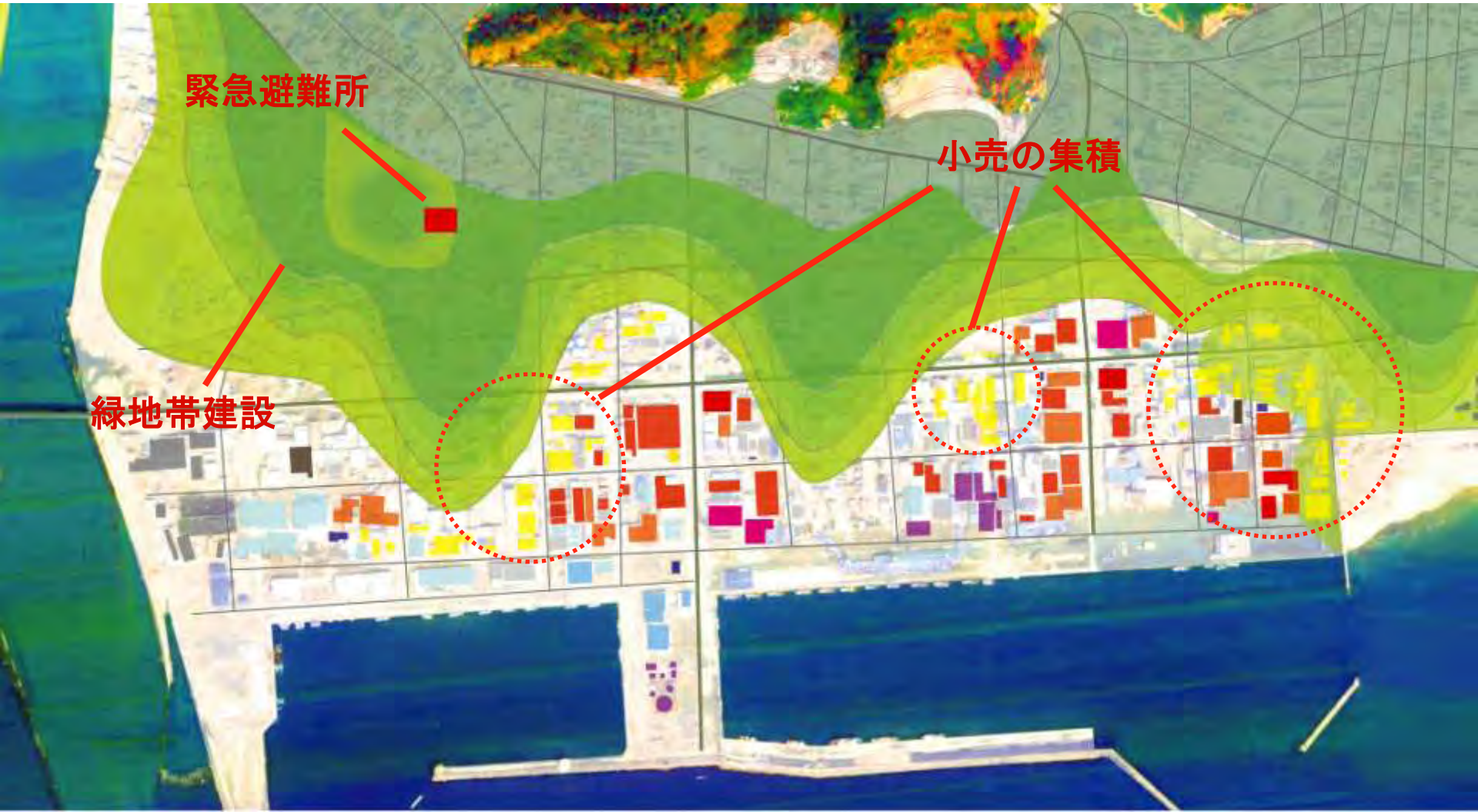
・排水処理施設の復旧。水産加工場の復旧。緊急避難所の建設。



# Phase3 (2~5年)

## 港周辺環境の整備

・緑地帯の建設。小売店の復旧。

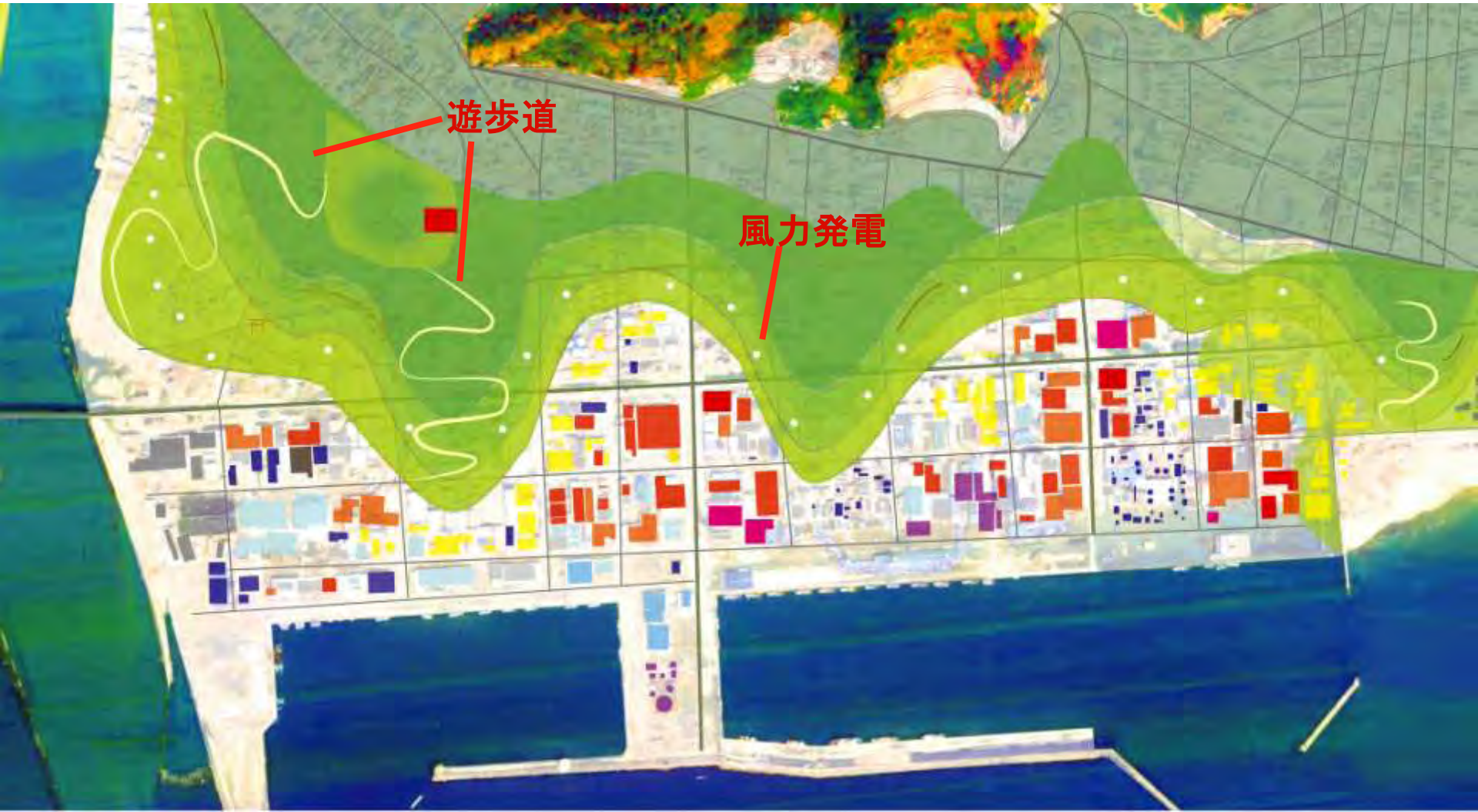




## Phase4 (10年～将来)

### 漁港資源の活用

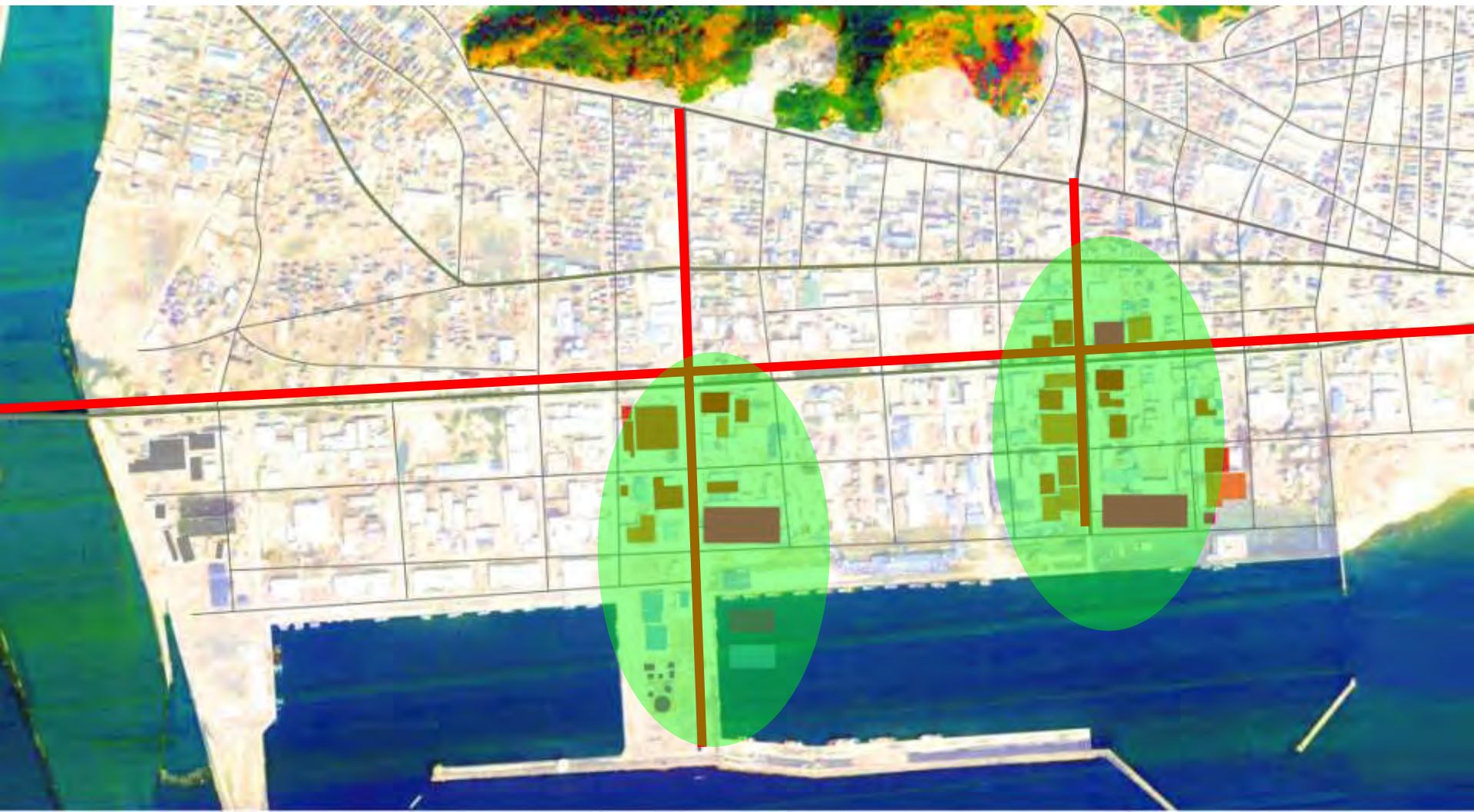
- ・漁港の本格的運用。緑地体の利用。風力発電などの新産業の創出。



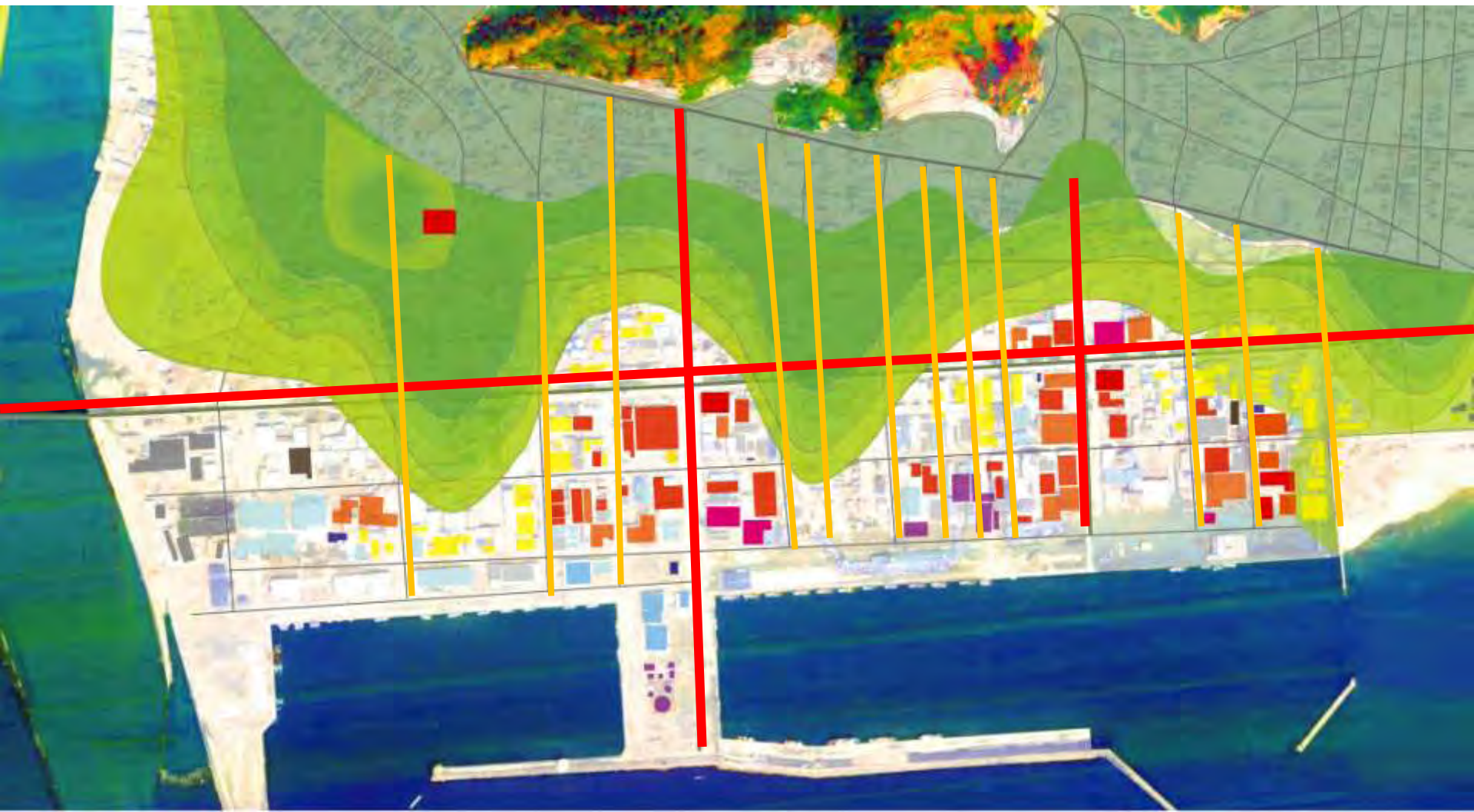
仮設漁港の復興が始まる。



漁港の復興が広がる。



過去の道は軸となり、風景の道、命の道となる。



新たな暮らしを創出してゆく。緑地共生体。



# 石巻最大のイベント



# 水の恵み



# 震災被害にあった鳥居の再建築





# 昔の漁業風景の再現



# 自然を継承するシンボル





# 緑地共生体のつくりだす暮らし

